

山形五堰ごみ調査について

イオン山形南店チアーズクラブ

1 目的

イオン山形南チアーズクラブでは、2011年に庄内海岸の海ごみ問題について体験学習を実施した。その中で、内陸部のごみが河川を通り、海に流れ着いていることを初めて知った。

そこで、今回は内陸部の水路である「山形五堰」のごみ調査に参加することで、ごみの発生状況を知り、海ごみ問題をもっと身近な問題として多くの方々に知ってもらうために、チアーズクラブメンバーが体験したことを壁新聞にまとめた。

2 調査方法

山形五堰の3地点①御殿堰(小白川) ②笹堰(鉄砲町) ③八ヶ郷堰(瀬波)にごみ回収網を設置して、流下するごみを回収。回収したごみは分別し、分類区分ごとに数量や重さを測り、ごみの実態調査を実施した。

ごみ調査期間は、各調査地点に7日間×2回設定

- ◆ 1回目 平成24年7月29日～8月5日
- ◆ 2回目 平成24年11月4日～11月11日

チアーズクラブメンバーは、各最終日のごみ回収と分別に参加。

主な調査は、山形県村山総合支庁 保健福祉環境部 環境課の方々とNPO 法人やまがたグリーンセンターの皆さまが担当された。

3 調査結果

- ① 調査1回目(7月29日～8月5日)は、お盆前で河川や堰の清掃活動が行われている時期と重なり生活ごみは少なく、流下した草が主なごみだった。
- ② 調査2回目(11月4日～11日)は落葉の季節だったため、自然由来の漂流物が多かった。柵は落ち葉でびっしりと覆われていた。

4 考察

3地点の中で一番市街地にある堰では、弁当のふたや空き缶がポイ捨てされており、人通りや車通りの多い少ないによって、ごみの量に差が出るのが分かった。

また、一番多いごみはどの地点でも、たばこの吸い殻で、小さいごみのポイ捨てが河川を汚す原因になっていた。

5 まとめ(参加したチアーズクラブメンバーの感想です)

- ① この調査に参加して、山形五堰がどこを通っているかを知ることができました。また実際に普段は入ることができない堰の分岐地点に入り、その水の流れがとてもきれいなことに感激しました。
- ② 2011年の海ごみ調査と今回の山形五堰ごみ調査の両方に参加しましたが、山形五堰をきれいに維持していくことが、庄内の海をきれいにすることにつながりと学びました。
- ③ 私達ができる身近なごみ拾い活動への参加や、町にポイ捨てをしないことをこれからも続けていきたいです。
- ④ 自然由来の草や木、葉もごみとして扱われることを初めて知りました。ごみが川に流れ出してしまうと、その回収に多くの時間やお金がかかることは、海ごみ問題と同じだと感じました。